

#### 3.4.10 2006年夏季(7~8月)分析結果

結果は、以下の表及び図としてまとめた。なお、値はすべてヒ素換算値とした。

表 3.4.12 2006年夏季(7~8月)地下水分析結果一覧表

図 3.4.25 2006年夏季(7~8月)ABトラック地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.26 2006年夏季(7~8月)A井戸周辺地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.27 2006年夏季(7~8月)B地区地下水 DPAA 汚染状況図

##### 1) A井戸周辺

付近で最も高濃度を示すのは、A井戸から南西に約10m離れた39孔の深度30mで、12.0mg-As/Lある。

また、これまで濃度の高い傾向が続いていたA井戸から南東に約10m離れた37孔の深度30mは1.4mg-As/Lと低下傾向にある。ただし、No.37直近の揚水井戸(B-1)は、深度20mで10.0mg-As/L、深度30mで11.0mg-As/Lと高い濃度を示す。

A井戸直近のNo.34は、今回すべての深度でNDとなった。このNo.34は時系列変化が著しい。

グラウンド北西角のNo.27は、前回と比較して濃度が低下しており(30m:0.9 0.76mg-As/L)、深度10m、20mではNDとなった。

No.27の近傍のNo.155孔の濃度は前回とほとんど変わらない(30m:5.7 5.4mg-As/L)。

##### 2) 掘削調査地点

各地点の濃度は、前回同様、浅層部(10m)で濃度が高く、深部(30m)で濃度が低い傾向にあり、最も濃度が高かったのはF-10(当初のNo83孔深度10m)で、7.5mg-As/Lであった。同地点の深度30m(F-12)は、0.22mg-As/Lであった。

##### 3) B地区

これまでと同様、汚染域に大きな違いはなく、汚染は30mを主体としている。今回B地区で高濃度を示すのは、B地区中心から西に50mのNo.173の深度30mで0.52mg-As/Lである。

また今回、B地区の中心のNo.54の浅層部の濃度が上昇している。(深度10m:0.001 0.043mg-As/L、深度20m:0.002 0.067mg-As/L)。同様に、前回と比較して浅層部の濃度が大きく上昇するのは、B地区中心から西北西約150mのNo.57である。(深度10m:ND 0.021mg-As/L、深度20m:0.001 0.16mg-As/L)。

##### 4) AB間

AB間では、浅部(10m)では前回同様汚染が全く見られず、さらに深度20mでも汚染が見られなくなった。深度30mでは、一部NDの箇所があるが、汚染はAB間でほぼ帯状に分布している。

##### 5) ABトラック外周

前回測定結果に引続き南西端のM-20、M-3でDPAAが確認された。前回と比較して濃度に大きな変化はないが、M-3よりM-20の濃度が高い。外縁部で新たに設置したモニタリング孔(M-24~M-29)にお

いては、前回の測定に引き続き、今回も全ての検体で検出されなかった。





図3.4.25 2006年夏季(7~8月)ABトラック地下水DPAA汚染状況図

単位:  $\mu\text{g-As/L}$

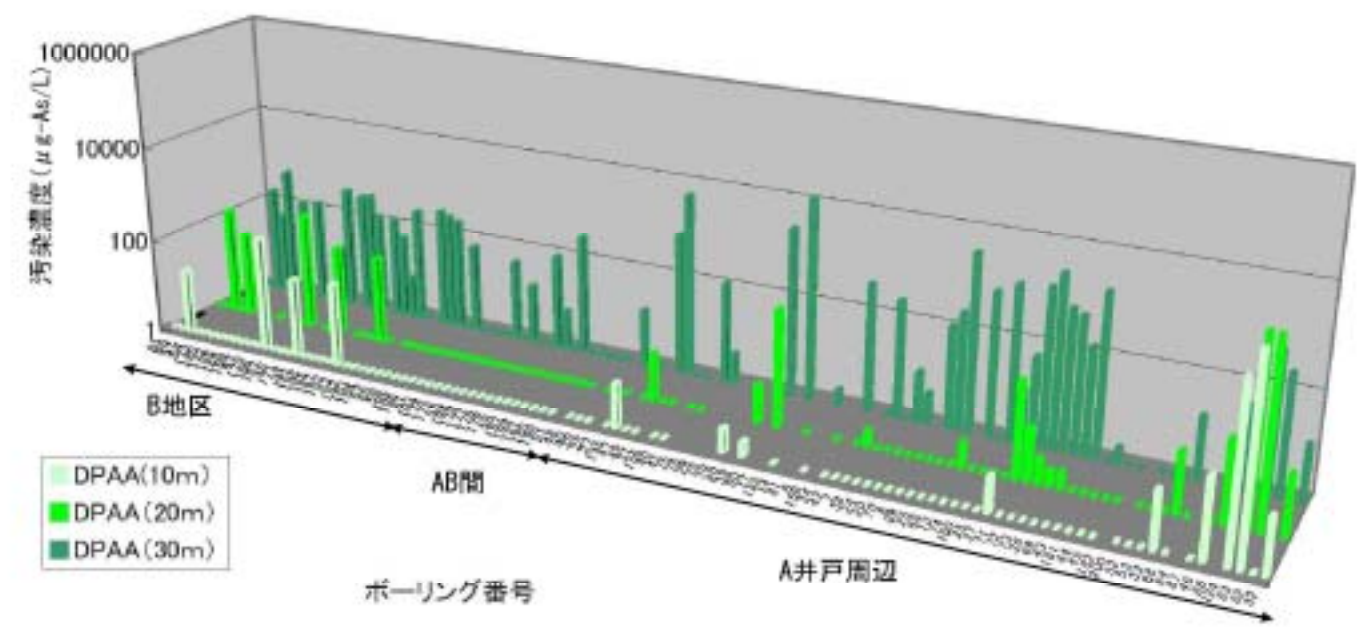
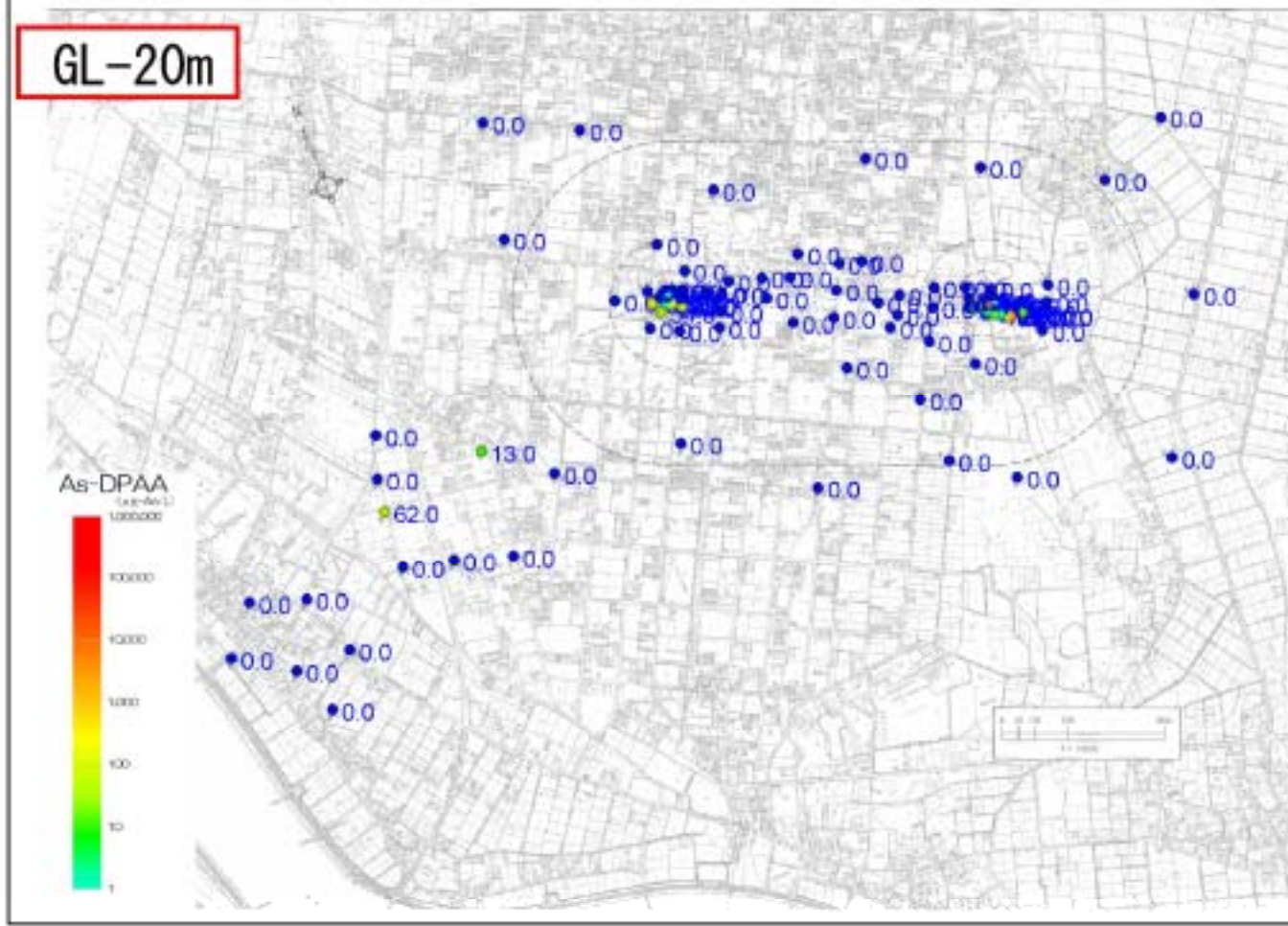
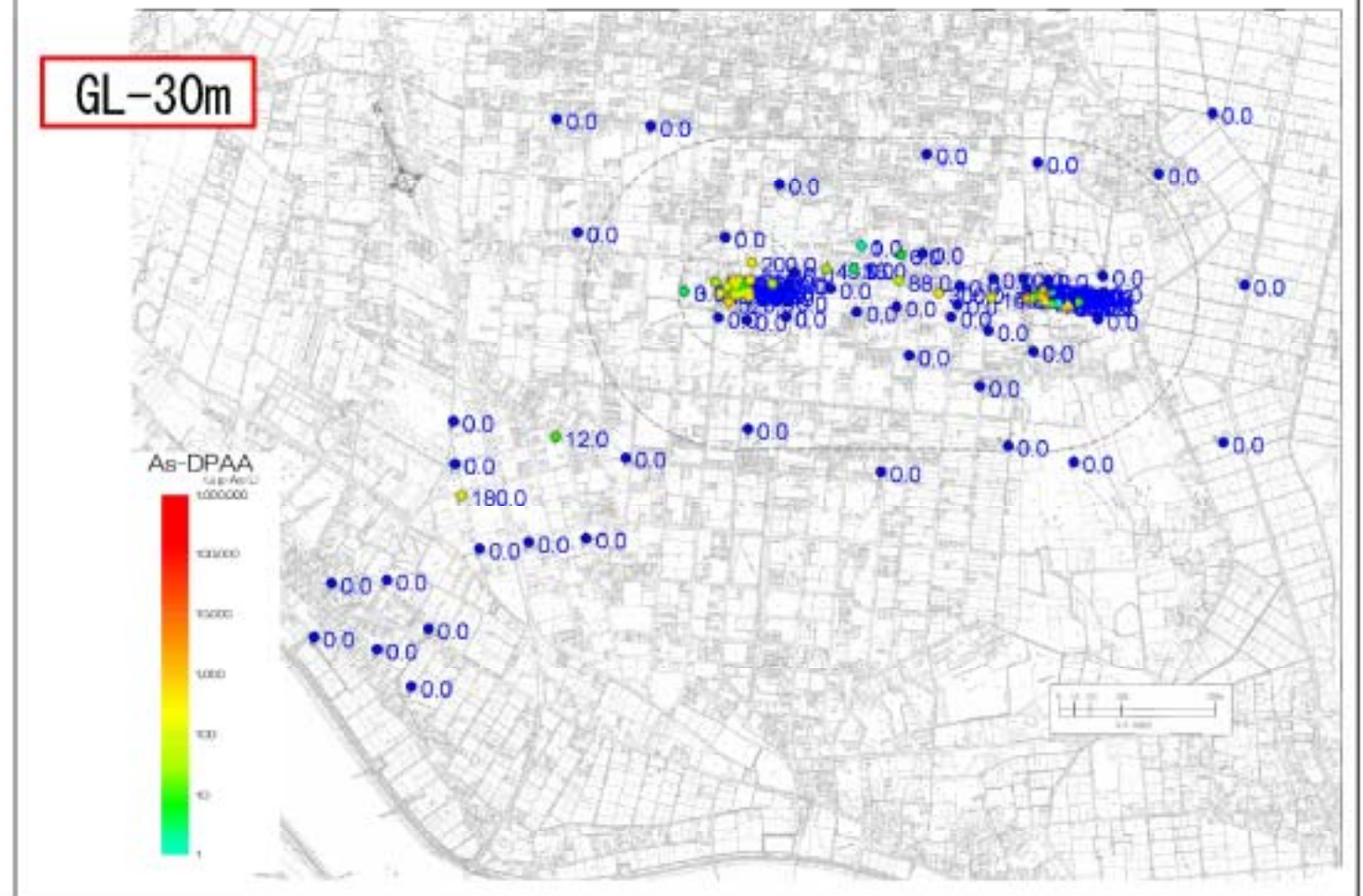
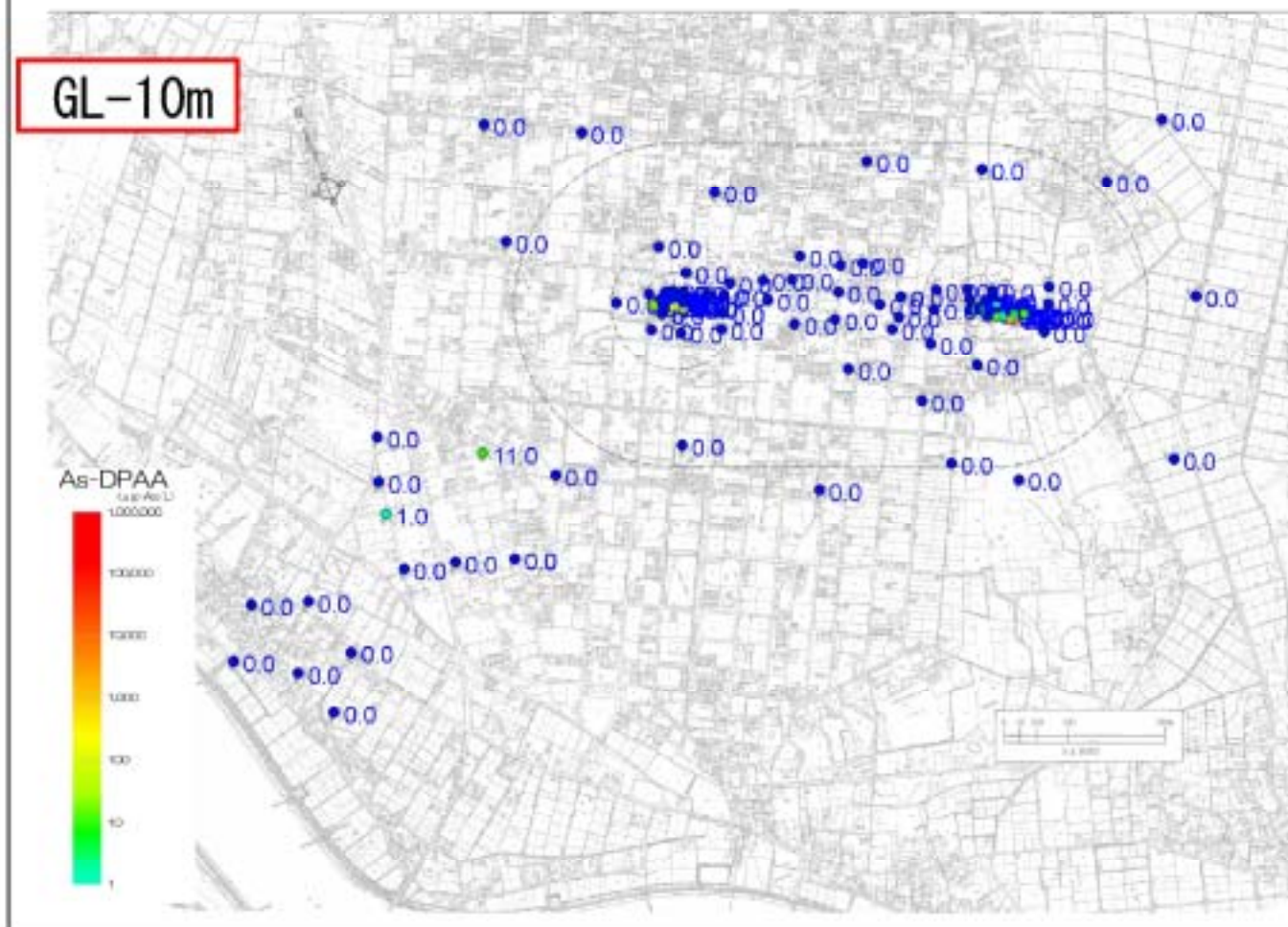




図3.4.26 2006年夏季(7~8月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位:  $\mu\text{g-As/L}$

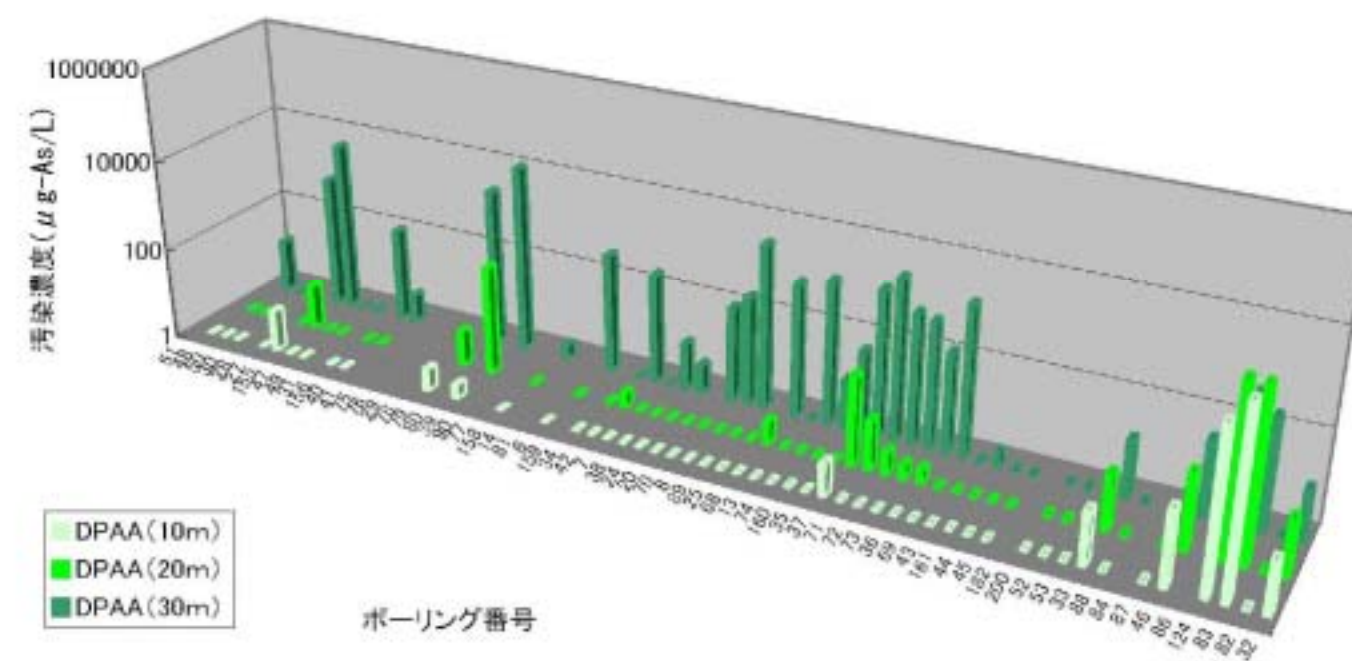
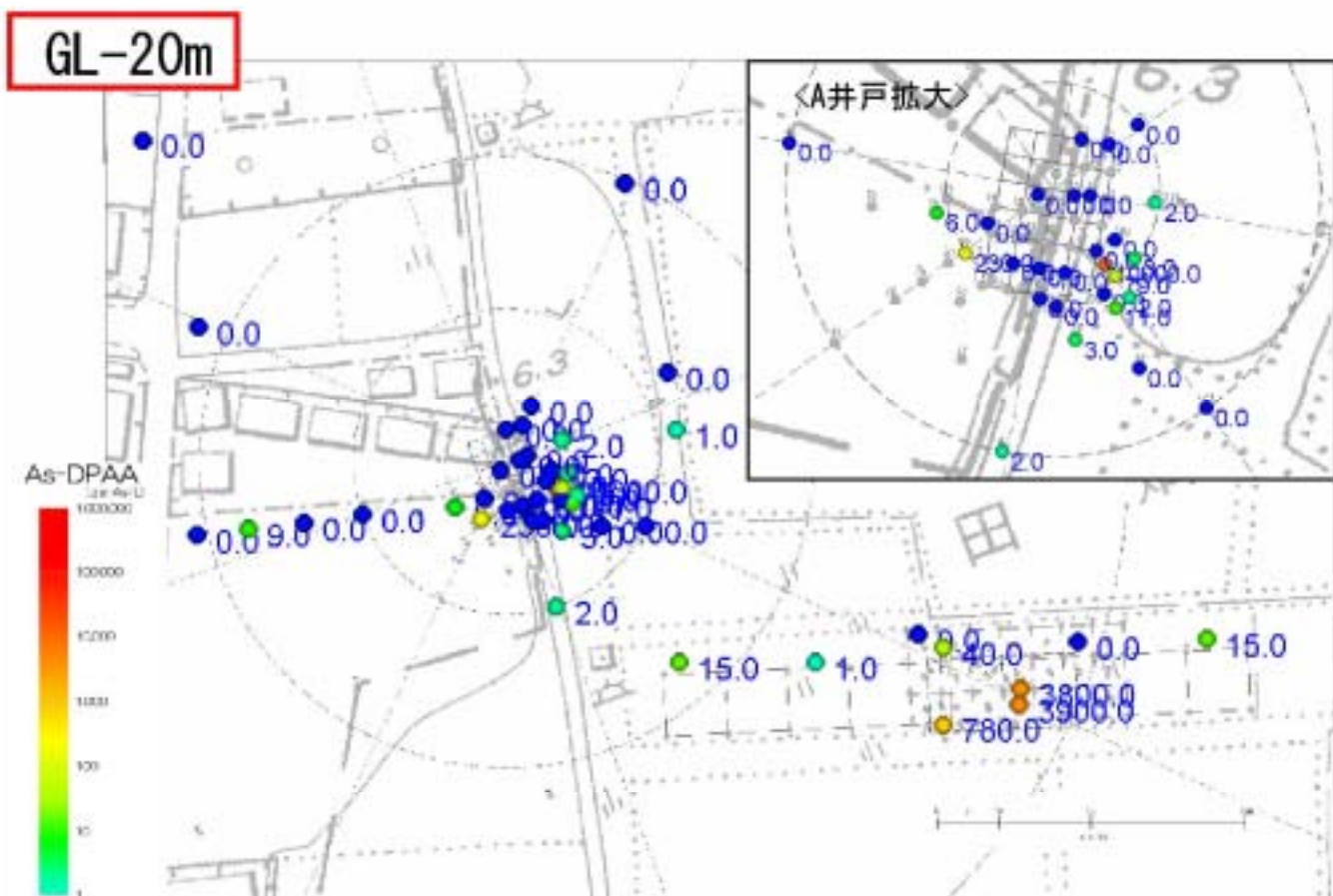
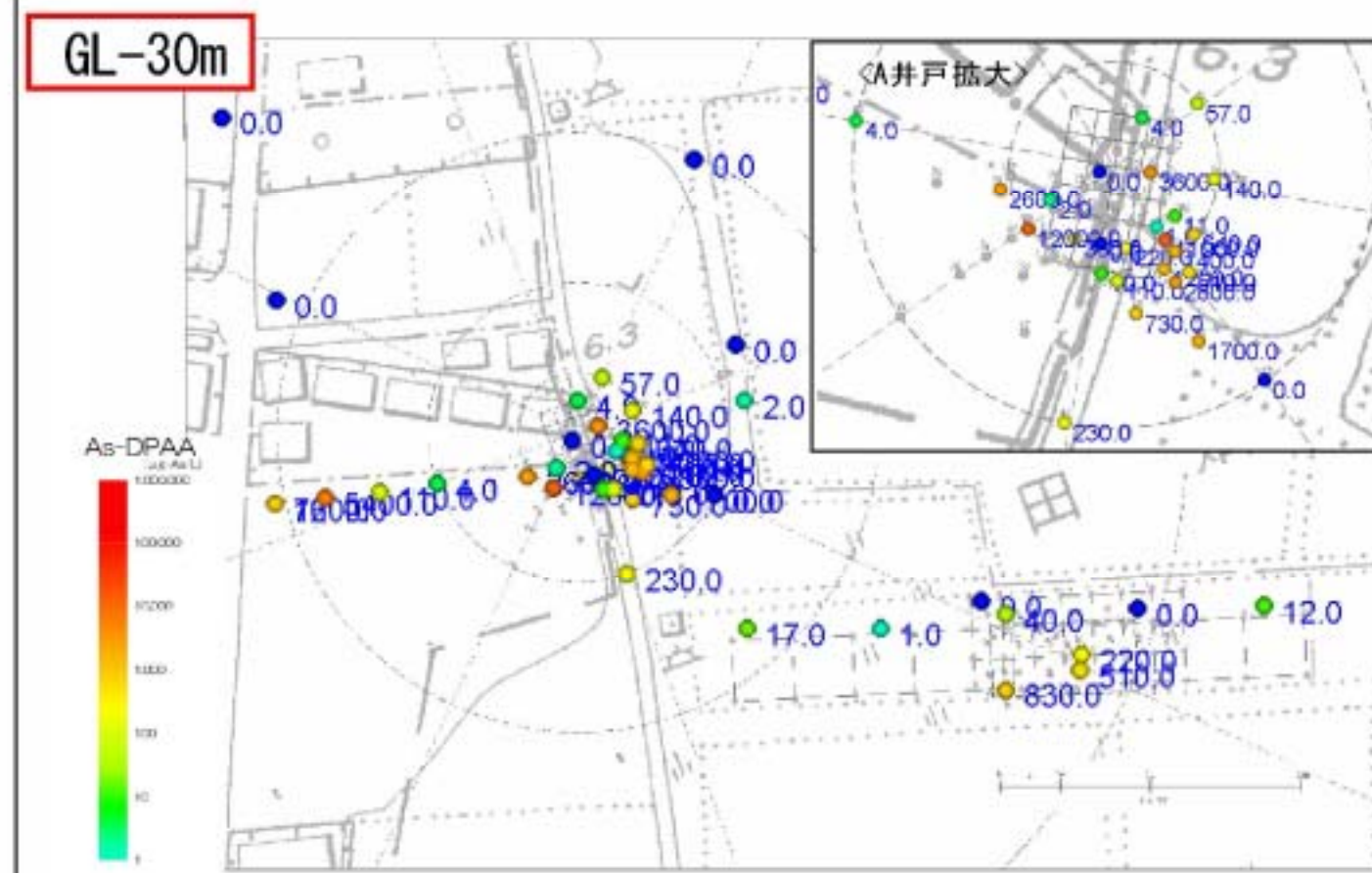
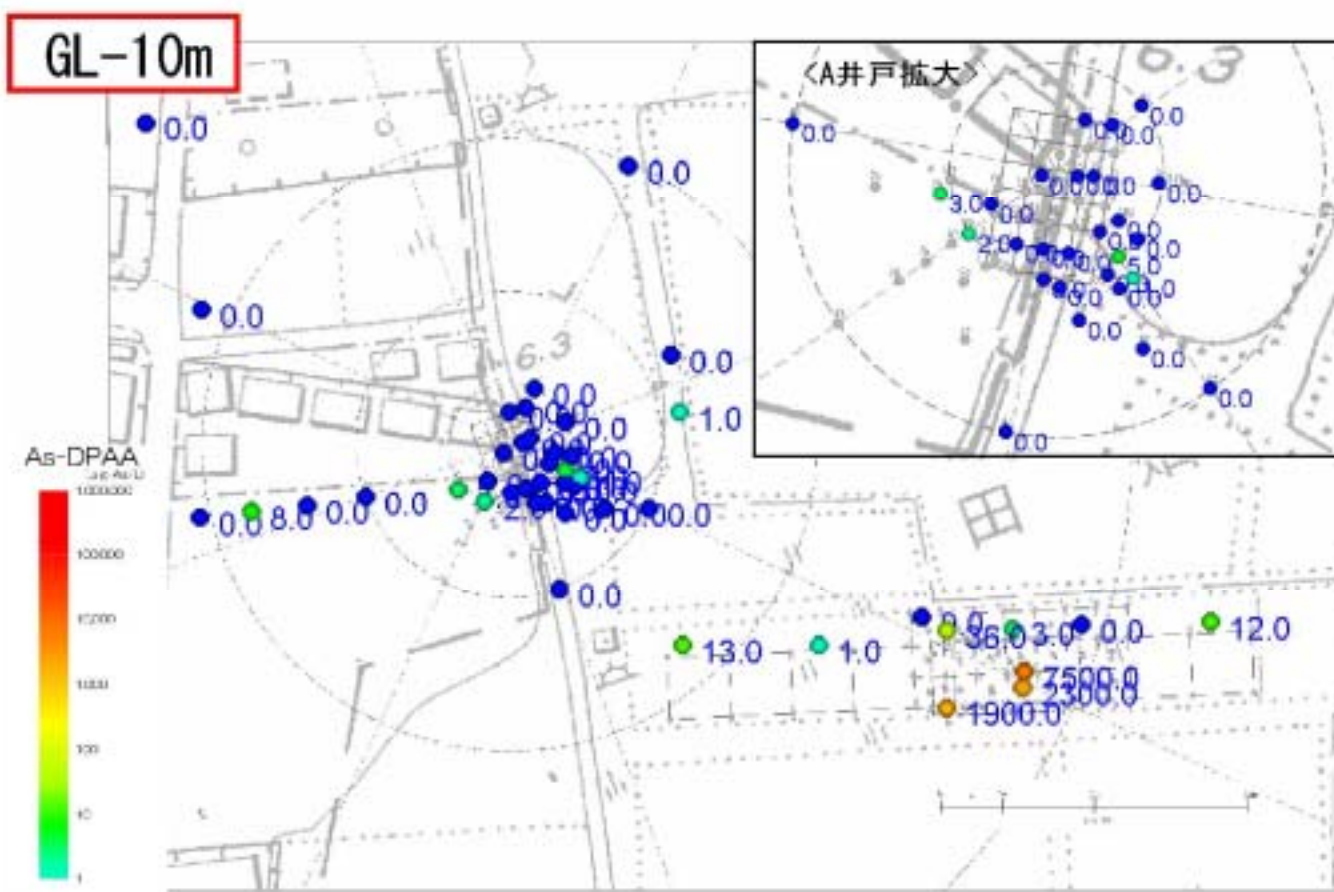




図3.4.27 2006年夏季(7~8月)B地区地下水DPAA汚染状況図

単位:  $\mu\text{g-As/L}$

